

教員名	澤田 悠紀	所属学科	経営学科
<p><b>【ゼミでは何を学ぶのか】</b></p> <p>私たちの文化を支える法の仕組みについて研究します。</p>			
<p><b>【どのように学ぶのか】</b></p> <p>皆さんは、じつは隅々までガチガチに法律によって縛られた生活をしています。たとえば、図書館で本をコピーするにも、ツイッターでリツイートするにも、サイトから漫画をダウンロードするにも、とにかく著作権法を遵守しないと大変な目に遭いかねないことをご存知でしょうか。なので、著作権法を勉強しないと人生が危険です。このゼミではその著作権法などを学べます。参加しましょう。</p> <p>…と言いたいところですが、残念ながら、まあ必ずしもそうとも言いきれません。民法「不法行為」や刑法「詐欺罪」の存在を知らないがために、レストランでお腹いっぱい食べたけれども支払いをせずに帰ってきてしてしまったという方がさほど多くない限り、皆さんの法律知識の有無と、法的に正しい行動選択との間には、あまり相関関係がないようにも思われるからです。</p> <p>他方で、世の中には「これは一体どうすればいいのだろうか？」と悩んで先に進めなくなってしまうような問題も結構あります。そのような時に役に立つのが、法的な問題解決力（≠法律知識）です。法的思考力といっても良いかもしれません。リーガルマインドなどというバズワードもあります。なんと名付けるにせよ、討論を通じ「難しい問題にひるまず全力で挑んで解決する力」を養います。</p>			
<p><b>【学んだことはどのように生かせるのか】</b></p> <p>知識としての法律は、伝家の宝刀となります。しかし、それを抜く前に、なぜレストランで食事をしたら支払いをするのに自宅ではしないのか？などと真剣に悩んだ上で、「食べたけれども支払いをしたくない」という人がいる時、「食べたのだから支払ってほしい」というレストランとの間で、どのようにしてこの対立状況を解消すべきか思考し、問題解決に向けた行動に移せる人間になることが、とても大事であると思っています。それには「この人はなんで支払いたくないのかな」「レストランはどうしてこの人にまで支払って欲しいのかな」といったように、さまざまな人の立場や気持ちを想像する力や、噂に流されず客観的に事実を捉える力や、ひとつの解決方法が当事者や社会全体に与える影響を考察する力などを、身につけていく必要があります。これらの力は、将来、仕事のみならずプライベートにおいても、必ずや、皆さんの身を助けてくれることとなるでしょう。</p>			
<p><b>【おすすめの入門書・基本テキスト】</b></p> <p>丸山真男『日本の思想』（岩波新書、1961年）  木庭頭『誰のために法は生まれた』（朝日出版社、2018年）  前田・金子・青木編『図録 知的財産法』（弘文堂、2021年）</p>			
<p><b>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</b></p> <p>正解のない問題にどうやって取り組むか。ゼミが終わったら頭蓋骨の中が熱くなって数日間は冷めない感じがするというような知的興奮を、私も皆さんと一緒に味わいたいと思っています。「大学というのは、教員が学生に『教える』だけだと、ただ教員の劣化コピーを大量生産する場にしかならない」というのは、私の師匠からの伝えです。ゼミにおける私の役目は、皆さんひとりひとりが個性や才能を思う存分に発揮できるような場を用意することだと思っています。皆さんには、是非それを自己表現の場としながら、仲間と個性をぶつけ合って学ぶことの難しさや楽しさを味わっていただけたらと思います。</p>			